第 192 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)

A. 日時：2009 年 3 月 24 日(火) 10:00～12:10

B. 場所：武蔵工業大学 世田谷キャンパス 1 号館 3 階 第 1 会議室

C. 出席者(順不同，敬称略)：

委員長： 穂積(愛工大)

委　員： 山崎(渡辺委員代理，日立電線)，清水(東芝)，高橋亨(ビスキャス)，江原(武蔵工大)，池田(新日本石油精製)

幹　事： 田中康(武蔵工大)，内田(中部電力)

幹事補： 岡下(昭和電線)，高橋俊(電中研)(記)

オブザーバ：今井(東芝)

以上計 11 名

D. 提出資料

番号なし	第 191 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)	幹事団
192-1	誘電・絶縁材料技術委員会 委員名簿	幹事団
192-2	基礎・材料・共通部門 運営委員会情報	穂積委員長
192-3	平成 21 年度 誘電・材料研究会，技術委員会，その他行事予定(0 次案)	幹事団
192-4	調査専門委員会フォローシート(2008 年度計画)	幹事団
192-5	第 3 回 絶縁診断に基づく電力機器のアセットマネジメント調査専門委員会議事録	池田委員
192-6	平成 21 年度 家田賞，矢作賞の推薦募集について	内田幹事
192-7	誘電・絶縁材料技術委員会見学先候補	内田幹事
192-8	第 40 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催提案書	高橋俊幹事補
192-9	Instruction for submission	田中幹事
192-10	ISEIM2008 決算案	高橋俊幹事補

E.議事内容

1. 委員長挨拶

穂積委員長より挨拶があり，岡下幹事補が退任し，東芝・今井氏に幹事補に就任いただくこと，および岡下幹事補への長年の幹事補業務に対する感謝の言葉があった。また，編修委員については渡辺委員の後任として江原委員に就任いただくことが報告された。

2. 議事録の確認，承認

高橋俊幹事補より第 191 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録(案)の報告があり，承認された。

2. 名簿確認

資料 191-1 が確認された。渡辺委員の FAX 番号，池田委員の所属が未修正であるため，次バージョンで修正することとした。他に修正事項等あれば，高橋俊幹事補まで各自連絡することとした。

3. 基礎・材料・共通部門 運営委員会 報告

資料 191-2 に基づき，穂積委員長より報告された。技術報告の執筆において，著作権許諾の不要範囲が広がったこと，研究会資料のページ数が下限なし，上限 10 ページの方向で検討が進んでいること，活動資金関係でアイディアを出してほしい，等といった報告があった。

4. 平成 21 年度 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定(0 次案)

資料 192-3 に基づき，田中幹事より説明があり，以下の事項が確認された。

・ナノコンの研究会は 11 月に開催の方向で検討することとした。

・シンポジウムは 8 月 26 日～28 日に開催予定である。

・秋田の研究会は 9 月もしくは 10 月に開催の方向で穂積委員長にて秋田大学関係者と協議することとした。

・12 月の研究会は技術委員会の開催とあわせて実施する方向で検討することとした。

5. 調査専門委員会フォローシート(2008 年度計画)

資料 192-4 に基づき，田中幹事より説明があり，以下の事項が確認された。

・「環境対応材料・・・」調査専門委員会は技術報告書を発刊したことが報告された。

・その他，各委員会の活動状況，活動予定が確認された。

・解散済調査専門委員会の後継委員会の設立について，ポリマーがいし関連については内田幹事にて，ナノコン関連については穂積委員長にて，それぞれ関係者と協議することとした。

6. 各種調査専門委員会 議事録について

資料 192-5 が池田委員より紹介された。

7. 家田賞，矢作賞の推薦募集について

資料 192-6 に基づき，内田幹事より表彰規程を変更し，メール審議にて承認されたこと，被表彰候補者を引き続き募集していることが報告された。特に矢作賞候補者の重電関係者がいないため，重電メーカの 1 号委員に内田幹事より推薦依頼をすることとした。

8. 技術委員会見学会について

資料 192-7 が内田幹事より紹介され，見学先について議論した。この結果，NICT を第一候補として内田幹事より NICT 関係者に見学可否および委員会開催可否を打診することとした。

7. 若手セミナーおよび絶縁材料シンポについて

資料 192-8 に基づき，高橋俊幹事補より若手セミナーおよび絶縁材料シンポの開催について現在の状況が報告され，以下の議論があった。

・招待講演は国内の近縁異業種の方に依頼することとし，幹事団にて検討することとした。

・家田賞，矢作賞の記念講演は質疑応答込みで 30 分～1 時間とし，招待講演は発表 40～50 分＋質疑応答とすることとした。

・若手セミナーの幹事団として，今回はビスキャスおよび三菱電機の関係者にお願いすることとし，大学関係者として早稲田大学および武蔵工大より 1 名ずつ幹事団に参画

いただく方向で幹事団にて交渉することとした。

8. ISEIM2008 関連

資料 192-9 が田中幹事より，192-10 が高橋俊幹事補より紹介され，英文共通誌での特集号編修，および決算が進捗していることが報告された。

F. 次回委員会

情報通信研究機構(NICT)の見学とあわせ，2009 年 5 月 26 日(火)午後に NICT での開催の方向で調整することとした。

以上